



文部科学省「橋渡し研究支援推進プログラム」への「革新的バイオ医薬医工学の医療技術開発拠点」の採択について

概要

文部科学省が公募した「橋渡し研究支援推進プログラム」に本学医学研究院の中西 洋一教授が研究代表者として提案した「革新的バイオ医薬医工学の医療技術開発拠点」が採択されました。本拠点プロジェクトにおいては、独創的かつ画期的な国産医療技術の迅速な実用化・産業化を目指した橋渡し研究拠点の形成を目指します。

背景

医学の発展には、基礎医学から生み出される新知見を臨床医学へ応用することが必要です。しかし、基礎医学と臨床医学をつなぐ架け橋は必ずしも整備されていません。この2つの領域をつなぐ架け橋が「橋渡し研究」と呼ばれるものです。我が国の基礎医学は世界でもトップクラスで、一流の研究成果が年々報告されています。また、臨床医学もトップクラスであり、その結果として日本は久しく世界一の長寿国の立場にあります。ところが、基礎医学と臨床医学をつなぐ橋渡しは決してうまく機能しているわけではなく、画期的な医療を生み出す上での障害となっています。

九州大学では、ウィルス遺伝子組換え技術を基盤とした純国産バイオ医薬、及び我が国が世界に誇る工学技術を基盤とした情報型先進治療システムを中心に先進的な医療技術等の開発に取り組んできました。また、橋渡し研究を適正かつ安全に推進するための体制の整備も図ってきました。今回、これらの実績が認められて、九州で初めて文部科学省「橋渡し研究支援推進プログラム」への採択がなされました。

内容

「革新的バイオ医薬医工学の医療技術開発拠点」の事業は、基礎的な研究から派生しようとする新規医療の芽（シーズ）を、臨床の現場へとつなぐ仕組みを構築しようとするものです。第1の目的は、九州大学を中心に、西部日本で産声を上げた医療の芽を育てる体制づくりを図ることです。第2の目的は、特に有望な10のシーズを育成、支援することで、新しい医療技術を国民に提供することです。特に、センダイウィルス関連のバイオ医薬の開発と、画期的かつ独創的な医療機器の開発に主軸が置かれています。

効果

医学研究は、人類の福祉向上のためには当然のことですが、この事業の推進により、より効率的に医学研究が国民や社会の役に立つようになることが期待されます。一刻も早く、画期的な医薬、医療機器を社会に登場させることが期待される効果です。

今後の展開

九州大学を橋渡し研究の拠点として活用することで、福岡から、九州から、安全、安心、効果的な新しい医療を世界へ提供します。

【お問い合わせ】

医学研究院教授 中西洋一

電話：092-642-5376

FAX：092-642-5389

Mail：yoichi@med.kyushu-u.ac.jp